

※水色と黄色のセルは回答必須(回答すると色が消失)。

送付先:report@r-ict-advisor.jp
(一財)全国地域情報化推進協会

派遣決定番号 002K

報告日 令和7年9月10日

報告回次 2日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	鹿嶋市教育委員会			代表者名	川村 等
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	教育指導課		連絡先電話番号 0299-82-2911
担当者役職	指導主事	担当者氏名	神宮司 剛		連絡先E-mail
住所	314-8655 茨城県鹿嶋市平井1187番地1				

1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

団体名	連絡先部署
担当者氏名	連絡先電話番号

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(複数団体)	事業名	鹿嶋市情報教育研修会
概要	教育用生成AIの活用など、学校のDX化による授業の質的向上と校務の効率化の両立を目指した先進事例の授業公開、研究協議、講師指導を行い、その成果を保護者、地域住民及び市内教員と共有することにより、児童生徒、保護者、地域住民及び教員の情報活用能力の向上を図る。		
支援を求める分野	人材(DX推進のための機運の醸成) 人材(DXに関する知識習得・研修・育成) AI活用 生成AI活用 教育情報化／情報教育働き方 ICT活用広報		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和7年9月9日	支援・助言&講演(実地)	13時30分	16時30分	活動時間(分)
2-2.	会場名	鹿嶋市立波野小学校		最寄駅	鹿島神宮駅
	派遣場所	茨城県鹿嶋市明石516		最寄駅からの交通手段	送迎

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	平井 聰一郎
評価	大変良い
上記評価の理由(どのようによろがよかったです等詳細に)	専門的な知見に基づいた具体的な指導と、教員の自律的な学びを促すアプローチがあった。研究授業への具体的な助言を通じて、AIが授業案作成や児童の思考を深める強力なツールであることを示し、教員全体のAI活用への意識を大きく高めた。また、講演や協議を通して「とりあえず試してみる」という主体的な行動を引き出したことで、教育DX推進の機運を市全体で高めることに大きく貢献した。これらの成果は、今後の鹿嶋市における教育DX推進計画に直結するものであり、その影響は非常に大きい。
アドバイザーへの要望事項	今後、教育DX推進リーダーが各校の校内研修を企画、運営するために、各教科や単元に合わせたAIの具体的な活用方法をご指導いただきたい。また、教育DXを市全体で進めるには、保護者や地域住民の理解が不可欠なため、学校公開や保護者会などを通して、教育DXの意義を伝えるための具体的な啓発方法について、ご助言をお願いしたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】		合計人数	40人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	40		その他(学生など)

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	市を挙げた教育用デジタルドリルや教育用生成AIの活用といった取り組みにおいて、学校間で格差が生じている。本事業を通じて、教育利用、校務利用の両面で好事例を継続的に共有していく必要がある。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	様々な情報教育研修を通じて教育DX推進リーダーを育成し、市内全ての小中学校で1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業参観 第5学年3組 社会科 授業者への講師指導 講演「児童生徒の学びを支える『教育DX』を実現するために」
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	研修を通じて、参加者のAI活用に対する関心と意欲が大幅に高まった。研究授業での具体的な活用例や、授業案・テスト作成、校務効率化といった具体的な活用方法を知ることができ、多くの教員に「まずは試してみる」という前向きな姿勢が醸成された。また、波野小学校での研究授業は、ICTが児童の思考を深めるツールとして機能することを具体的に示した。スクールAIやGoogleフォームなどの活用により、主体的・対話的な学びが促進される様子が共有され、教員間の情報共有の基盤づくりも進んだ。
具体的な成果物	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない</p> <p>12月中旬には「校内研修の成果発表と活用指導力の状況」を、市内全校で作成する予定である。</p>
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	教育用デジタルドリルや生成AIの活用において、学校間の格差が残っている。特定の学校の好事例が市全体に十分共有されておらず、教員のスキルや意欲にはばらつきがある。研修内容と機会が不足している。AIへの関心は高まったが、各教科や単元に合わせた具体的な活用法や、教員が実際に試せる機会が限られている。AI活用に対する深い理解が不足していること。多くの教員がAIを効率化ツールと捉え、児童の思考を深めるツールとしてのノウハウが共有されていない。
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>AI活用への意識と意欲が大幅に向上し「とりあえず使ってみる」という前向きな姿勢が醸成されたことがうかがえる。授業案作成や校務効率化など、具体的な活用方法の理解が進み、ICTが児童の思考を深めるツールになり得るとの認識が広まった。</p>
4-3. 今後の計画	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい ④予算以外で、今後取組む事項がある</p> <p>今後の計画は、教育DX推進リーダーが中心となり、AIの具体的な活用方法に関する継続的な研修を実施すること、事業で得られた好事例を共有し、学校間の格差を解消すること、そして2月上旬までに最終報告書を作成することである。これにより、市内すべての小中学校で主体的・対話的な学びの実現を目指す。</p>
4-4. 事業の最終的な目指す姿	令和8年度末までに、市内全校の教員がICT機器の授業における効果的な活用方法を共有・普及させることで、教員のICT活用指導力を向上させる。これにより、未来の地域活性化を担う児童生徒に必要な情報活用能力の育成に貢献する。

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 ○掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

